

C.S.D.A  
LEADERSHIP MANUAL  
BADGE-TEST SYSTEM  
バッジ・テスト・システム

認定基準

1979.-2008

## バッジ・テスト・システム スター・システム 資格認定システム

### (1) 目的

市民スポーツ、アマチュア・スポーツとして、スキン&スクーバ・ダイビングを正しく安全に行うことのできる技術と知識を習得せしめその技術を認定すると共に、海を愛するスポーツマンとしての徳育指導を行い、スポーツ潜水の普及に寄与する。

### (2) ランク

- a. 取得級 初級・中級・上級の3段階とする。(それぞれ、C級・B級・A級と称する)
- b. 評価級 6・5・4・3・2・1級の6段階とする。

### (3) 認定基準

- 初級 6級・・・各種教育団体の修了証保持者で15回以上スキン・ダイビングの海洋経験のある者で、スキン・ダイビングの理論をマスターしている者。
- 5級・・・各種教育団体の修了証保持者で15回以上スクーバ・ダイビングの海洋経験のある者で、スポーツ潜水の理論をマスターしている者。
- 中級 4級・・・準指導員と称する。上級者の指導のもとに、初心者指導のアシスタントができる者。
- 3級・・・B級指導員と称する。上級者の指導のもとに、初心者指導のできる者。
- 上級 2級・・・2A級指導員と称する。上級者の指導のもとで、B級指導のアシスタントができる者。
- 1級・・・A級指導員と称する。検定指導員の指導・監督のもとで、B級指導ができる者。

### (4) 検定試験

- A. 実技試験
- B. 学科試験
- C. 口述試験
- D. 教育実習(実技、学科)
- E. 面接試験
- F. 研究論文

### (5) 検定指導員

- 1・1 本協会の会長が、スポーツ潜水に関する経験、安全指導など豊

富なキャリアを有し、かつ人格・指導力共に優秀にして、熱意ある適格者を検定員に認定する。

- 1・2 検定指導員は、本協会のバッチ・テストシステムを統括・管理・運営しなければならない。
- 1・3 検定指導員は二人とする。
- 1・4 検定指導員は補佐として、検定員を認定することができる。
- 1・5 検定指導員は検定委員会を組織することができる。
- 1・6 検定指導員はバッチ・テスト合格者の各種資格認定を行う。
- 1・7 検定指導員は検定員の資格を取り消すことができる。
- 1・8 検定指導員はバッチ・テスト合格者の各種資格認定を取り消すことができる。
- 1・9 検定指導員はバッチ・テスト・システムに対してのみ責任を負う。

## (6) 指導員

### 1) B級指導員

- 1・1 初級コースの実行に責任がある。
- 1・2 初級ダイバー(1・スター・ダイバー)の認定を行うことができる。
- 1・3 指導者養成コースに奉仕する義務がある。
- 1・4 協会の指導・普及活動に参加する義務がある。
- 1・5 協会指定の指導者研修会に参加する義務がある。
- 1・6 中級コースの実行を、A級指導員の監督のもとで、行うことができる。

### 2) A級指導員

- 2・1 指導者養成コースの実行に責任がある。
- 2・2 中級ダイバー(2・スター・ダイバー)・上級ダイバー(3・スター・ダイバー)の認定を行うことができる。
- 2・3 初級コース、中級コース、指導者養成コースの教育課程の研究、編成及び改定を検定指導員に協力して行う。
- 2・4 スペシャルティ・コースの研究開発、運営管理を検定指導員に協力して行う。
- 2・5 中級コースの実行に責任がある。

(7) システム構造

A) 検定プログラム

検定指導員

A 級指導員

< 上級バッチ・テスト >

B 級指導員

< 中級バッチ・テスト >

B 級準指導員

< 初級バッチ・テスト >

認定ダイバー

B) 指導プログラム

スペシャリティ・コース  
指導者養成コース

検定指導員

A 級指導員

中級コース

A 級指導員

初級コース

B 級指導員

C) システム・プログラム

A 級指導員

A 級準指導員

< 上級バッチ・テスト >

B 級指導員                      スペシャリティ指導員

< 中級バッチ・テスト >

B 級準指導員

< 指導者養成プログラム >

C 級ダイバー & 3・スター・ダイバー

< 初級バッチ・テスト >

< 上級プログラム >

2・スター・ダイバー

< 中級プログラム >

1・スター・ダイバー

< 初級プログラム >

海洋調査員  
< 海洋調査員資格認定試験 >

バッチ・ダイバー  
(バッチ・ダイバーとは、初級及び中級バッチ・テスト合格者をいう。)

スペシャリティーダイバー  
< スペシャリティープログラム >

C級ダイバー & 2・スター・ダイバー & 3・スター・ダイバー

## バッチ・テスト・システム

### (1) 初級プログラム認定基準

#### 構造

##### スキン・ダイバー・プログラム

- (1) 受講の条件
- (2) 指導者
- (3) 認定
- (4) 参考標準テキスト
- (5) 教程標準
- (6) 注意

##### スクーバ・ダイバー・プログラム(1・スター・ダイバー)

- (1) 受講の条件
- (2) 指導者
- (3) 認定
- (4) 更新手続き
- (5) 標準テキスト
- (6) 教程標準

#### スキン・ダイバー・プログラム

- (1) 受講の条件
  - A: 8才以上
  - B: 医師の診断書の提出
- (2) 指導者
  - A: B級指導員および上位の指導員
- (3) 認定
  - B級指導員及び上位の指導員
- (4) 参考標準テキスト
  - A: スキンスクーバ潜水講座
  - B: スポーツ潜水の科学と実際
- (5) 教程標準・・スポーツ潜水初級カリキュラム
  - A: 学科 8時間以上
  - B: 実技 10時間以上
  - C: 水泳能力テスト
    - 1. 300m 水泳
    - 2. 10m 水平潜水
    - 3. 20m 救助水泳
  - D: 海洋実技 2回以上
  - E: 終了検定
    - 1. 学科(指導員が用意する)
    - 2. 実技 別になし
- (6) 注意 年令に応じた授業を行うこと。

## 1・スター・ダイバー認定基準

- (1) 受講の条件
  - A. 15才以上
  - B. 医師の診断書の提出
- (2) 指導者
  - A. B級指導員及び上位の指導員
  - B. プール実技においては、一人の指導員に対して、受講生10名以下とし、準指導員を4人に一人の割でつけることが望ましい。  
海洋実技においては、指導員一人に対して、受講生4人までとし、一人の準指導員をつけることが望ましい。
- (3) 認定
  - B級指導員及び上位の指導員が行う。
- (4) 更新手続き
  - A. 3年に1度、認定した指導員に申し出る。
  - B. 認定指導員が活動中でないときは協会・事務局に要請すること。
- (5) 標準テキスト
  - A. スポーツ潜水の科学と実際
  - B. 潜水日誌
- (6) 教程標準・・・スポーツ潜水初級カリキュラム
  - A. 学科 15時間以上
  - B. 実技 18時間以上
  - C. 水泳能力テスト
    - 1. 300m 水泳
    - 2. 15m 平行潜水
    - 3. 20m 救助水泳
  - D. 海洋実技 3回以上(スキン含む)
  - E. 終了検定
    - 1. 学科標準
      - A) 用具
        - 以下の用具についての構造・種類・使用法・メンテナンス
        - 1. マスク
        - 2. スノーケル
        - 3. フィン
        - 4. スーツ
        - 5. ウェイト
        - 6. タンク
        - 7. レギュレータ
        - 8. フロートとダイバーズ・フラグ
        - 9. ナイフ
        - 10. 残圧計
        - 11. コンパス
        - 12. 水深計

- 13. 減圧計
- 14. BC (ベスト)
- B) 潜水物理
  - 1. 水中での音の効果
  - 2. 水中での光の効果
  - 3. 浮力 アルキメデスの原理
  - 4. ボイルの法則
  - 5. シャルルの法則
  - 6. ドルトンの法則
  - 7. ヘンリーの法則
  - 8. 水中での熱損失について
  - 9. 空気の組成
 以上、ダイバーへの影響の問題
- C) 潜水医学
 

以下の事項についての原因・症状、救急処置・予防法・手当

  - 1 スクイズ 中耳、サイナス、マスク、スーツ、肺、歯、胃腸
  - 2 ガス膨張 中耳、サイナス、肺、胃腸
  - 3 肺の過膨張 エア・エンボリズム、気胸、皮下気腫、メテア  
ル・エンフアシマ
  - 4 減圧症
  - 5 窒素酔い
  - 6 一酸化炭素中毒
  - 7 二酸化炭素中毒 いきこらえ、SCUBA
  - 8 酸素中毒
  - 9 アノキシア いきこらえ
  - 10 意識的ハイパーベンチレーション シャローウォーターブラ  
ックアウト
  - 11 無意識的ハイパーベンチレーション
  - 12 海洋生物
  - 13 つかれ、おぼれ
- D) ダイブ・テーブル
  - 1. 無減圧限界
  - 2. 無減圧再潜水の計算法
  - 3. 減圧潜水計算法
- E) 潜水環境
  - 1. 水温、潮流、波、透明度
  - 2. 海水底の状況、海水面の状況
  - 3. 生物
- F) 手順 (アルゴリズム)
  - 1. 潜水計画

2. 手信号
  3. ダイビング救急法とCPR
  4. 入水と出水
  5. ボート・ダイビング
  6. 救助法
  7. 潜水ストレスと予防法
  8. 潜水日誌の使用法
- G) 法規
1. 漁業調整規則
  2. 高圧ガス取締法
2. 実技標準
- A) SKIN DIVING
1. マスク・スノーケルをプールの底に置き、フィンをつける。
    - A. フォアード・ロール・エントリーをして、12m泳ぎ、ターンし、平行潜水して、マスクとスノーケルをリカバーし、クリアーする。さらにプールから出水する。
    - B. フィン、スノーケル、マスクをつける。バック・エントリーをして15m水面を泳ぎ、適度のハイパー・ベンチレーションを許し、15m平行潜水し、出水する。
    - C. フィン、スノーケル、マスクをつける。ジャイアント・ストライド・エントリーをし、400mを少なくとも4回、ヘッド・ファースト、2回フィート・ファーストで潜り、少なくとも25mごとに、フラッター・キック、ドルフィン・キック、バック・キック、サイド・キックを使って泳ぐ。
- B) SCUBA DIVING
1. スクーバ慣熟テスト
    - A. ベイルアウトをし、50m潜泳の後、はしごを用いて出水する。
    - B. ジャイアント・ストライド・エントリーをし、水面をスノーケルで100m泳ぐ、ついでレギュレータに交換してプールの底まで潜る。
    - C. バディー・ブリージングをしながらタンクを交換し、50m泳ぎ、さらにタンクを交換する。
  2. ダイビング・レスキュー
 

プールの底からダイバーを引き上げ、マウス・トゥ・マウスをしながらプール・サイドまで運ぶ、さらにプールから出し、CPRのシミュレーションを行う。
  3. 水中手信号の実技テスト(デモンストレーション)
  4. 用具の使用法テスト(デモンストレーション)
- C) OPEN WATER チェック・アウト・ダイブ

## スポーツ潜水初級カリキュラム

### 1 学科

#### (A) スキン・ダイビング

- 教程 1 a. 千葉県スクーバ・ダイビング協会  
b. バッチ・テスト・システム  
c. スポーツ潜水指導の現況  
d. 本講習の主旨

教程 2 安全潜水の心構え

教程 3 スキン・ダイビングの用具

- a. マスク
- b. スノーケル
- c. フィン
- d. ウエット・スーツ
- e. ウェイト
- f. ライフ・ベスト
- g. ナイフ

教程 4 潜水物理 1

- a. アルキメデスの原理
- b. ボイルの法則
- c. 音
- d. 光と色
- e. パスカルの原理

教程 5 潜水生理 1

- a. スクイズ
  - イ) マスク・スクイズ
  - ロ) 中耳スクイズ
  - ハ) 外耳スクイズ
- ニ) サイナス・スクイズ
- ホ) スーツ・スクイズ
- ヘ) ラング・スクイズ
- b. リバース・ブロック
- c. ブラック・アウト(アノキシア)
- d. 呼吸のメカニズム
- e.
  - イ) 肺活量 = 予備吸気量 + 呼吸気量 + 予備呼気量
  - ロ) 全肺気量 = 肺活量 + 残気量
  - ハ) 呼吸のメカニズム

#### (B) スクーバ・ダイビング

教程 6 スキン・ダイビングとスクーバ・ダイビングとの相違

教程 7 SCUBA の用具

- a) タンク
- b) レギュレータ
- c) 残圧計
- d) B.C.
- e) 水深計
- f) 時計
- g) コンパス

- 教程 8 潜水物理 2
  - a . ボイル・シャルルの法則
  - b . ドルトンの法則
  - c . ヘンリーの法則
- 教程 9 潜水生理 2
  - a . エア・エンボリズム
  - b . 気胸
  - c . 皮下気腫
  - d . 従隔気腫
  - e . リポイド肺炎
  - f . 一酸化炭素中毒
  - g . 酸素中毒
  - h . 窒素酔い
  - i . 二酸化炭素中毒
  - j . 減圧症
- 教程 10 危険な海の生物
- 教程 11 海況判断
  - a . 波浪
  - b . 潮流
  - c . 透明度
  - d . 水温
- 教程 12 組潜水
- 教程 13 水中手信号
- 教程 14 スポーツ潜水の定義
- 教程 15 反復潜水表の使用法
- 教程 16 救助法
- 教程 17 漁業調整規則
- 教程 18 高圧ガス取締法及び潜水用高圧空気の取り扱い方

## 2 実技

### (A) スキン・ダイビング

- 教程 1 三点セットの使用法
  - a ) マスクの使い方
  - b ) フィンの使い方
  - c ) スノーケルの使い方 (スノーケル呼吸法とスノーケル・クリアリング)
- 教程 2 水面スノーケリング ( 30 分)
- 教程 3 水面安全法
  - a ) 水面休息法
  - b ) ウエイトの水面脱着
  - c ) 立ち泳ぎ
  - d ) ライフ・ベストの使用法
  - e ) 浮力調整
- 教程 4 マスク・クリアリング
- 教程 5 マスク無しスノーケリング ( 25 m )
- 教程 6 圧平衡のとり方
  - a ) マスク・ブロー
  - b ) 耳抜き
- 教程 7 潜降法と安全浮上法 ( 5 m )
  - a ) ヘッド・ファースト・サーフェス・ダイブ (ジャック・ナイフ)

- b) タック・サーフェス・ダイブ
- c) フィート・ファースト・ダイブ
- 教程 8 エントリーの方法
  - a) ジャイアント・ストライド・エントリー(スタンディング・フロント)
  - b) セッティング・ロール・エントリー(バック・エントリー)
- 教程 9 スノーケリング(30分)
- 教程 10 救助法と救急法(スキン・ダイバー)

(B) スクーバ・ダイビング

- 教程 11 装備の点検及び装着(バディ・チェック)
- 教程 12 フル・ギア水面スノーケリング(100m)
- 教程 13 水面安全法
  - a) 水面休息法
  - b) B・Cの使用法
  - c) ウェイト脱着
  - d) 立ち泳ぎ
- 教程 14 レギュレータ・クリアリング
  - a) 排気
  - b) パージング
- 教程 15 レギュレータ呼吸
  - a) 水中遊泳(50m)
  - b) スノーケルとレギュレータの交換
- 教程 16 潜降と安全浮上法(5m)
  - a) 耳抜きとマスク・ブロー(はしご段使用)
  - b) 浮上速度
- 教程 17 マスク・クリアリングとマスク無し25m潜泳
- 教程 18 バディ・ブリージング
  - a) バディ・ブリージング
  - b) バディ・ブリージング潜泳
  - c) バディ・ブリージング浮上法
- 教程 19 水面脱着
- 教程 20 水中脱着とフリー・アセント・シュミレーション(5m)
- 教程 21 40m1ポイント・エアー・ステーション
- 教程 22 B・Cの使用法
- 教程 23 救助法と救急法
- 教程 24 (海洋実習)
  - a) 入水、出水ポイントの見方
  - b) 潮流、波の見方
  - c) 点検、装備(バディー・チェック)
  - d) バディー潜水

## スポーツ潜水初級プログラム（サンプル・コース）

1日目	6:00 - 7:00 p m	オリエンテーション
	7:00 - 8:00	用具の説明1（スキン・ダイビング）
	8:00 - 9:00	潜水物理1
	9:00 - 10:00	潜水生理1
2日目	6:00 - 7:00 p m	用具の説明2（スクーバ・ダイビング）
	7:00 - 8:00	潜水物理2
	8:00 - 9:00	潜水生理2
	9:00 - 10:00	海洋生物
3日目	6:00 - 7:00 p m	減圧症とダイブ・テーブル
	7:00 - 8:00	ダイブ・テーブル演習
	8:00 - 9:00	C P R
	9:00 - 10:00	救助法講義
4日目	6:00 - 7:00 p m	海洋一般
	7:00 - 8:00	関係法規
	8:00 - 9:00	終了テスト
	9:00 - 10:00	評価
5日目	9:00 - 12:00	スキン・ダイビング実技
	1:00 - 5:00 p m	スクーバ・ダイビング実技
6日目	9:00 - 12:00	スキン・ダイビング海洋実技
	1:00 - 4:00 p m	スクーバ・ダイビング海洋実技
7日目	9:00 - 11:00	学科テスト
	1:00 - 5:00 p m	プール実技テスト
8日目	9:00 - 12:00	海洋実技2
	1:00 - 4:00 p m	海洋実技3

## (2) 中級プログラム 2・スター・ダイバー認定基準

- (1) 受講資格
  - A. 15才以上
  - B. 1・スター・ダイバーに認定されてから、5回以上の海洋経験のあるもの。
- (2) 指導者
  - A. B級指導員および上位の指導員
  - B. 海洋実技においては、指導員1人に対して、受講生4人までとし、1人の準指導員を付けることが望ましい。
- (3) 認定
  - A級指導員および上位の指導員が行う。
- (4) 更新手続き
  - A. 3年に1度、認定した指導員に申し出る。
  - B. 認定指導員が活躍中でないときは、協会・事務局に要請すること。
- (5) 標準テキスト
  - A. スポーツ潜水の科学と実際
  - B. 潜水土必携
  - C. 潜水日誌
- (6) 教程標準・・・スポーツ潜水中級カリキュラム
  - A. 学科 10時間以上
  - B. 実技 海洋実技のみ  
海洋実技・・・10回以上(ナイト・ダイビングを1回)
  - C. 終了検定
    - 1. 学科標準
      - a. 初級プログラムの学科の範囲
      - b. 潜水計画
    - 2. 実技標準

以下の実技試験は海洋で行う

- a. スキンダイビング・・・300m水泳し、サーフェス・ダイブで6m潜水する。このテストでは、海況に応じたエントリーと出水方法をも見る。
- b. スクーバ・ダイビング
  - 1. プレダイブチェック・・・潜水前の用具の点検
  - 2. 150mスノーケルから呼吸しながら泳ぐ。
  - 3. 水深6mの地点で、マスクをはずす。さらにレギュレータをはずして、付ける。続いて、パディ・プリージングを2分間行う。
  - 4. マスクを手に持って入水し、マスクを付ける。20m潜水し、マスクをはずし、付ける。レギュレータをはずし、付ける。その地点で手信号を受け取る。

## スポーツ潜水中級カリキュラム (2・スター・プログラム)

- 教程 1 (講義) 海洋生物による傷害および、その救急処置  
(実技) 講義における海洋生物の観察・・・その1 (水深 9 m以内で行う)
- 教程 2 (講義) 海洋生物の生息範囲について  
(実技) 講義における海洋生物の観察・・・その2 (水深 9 m以内で行う)
- 教程 3 (講義) ダイブ・テーブルの復習  
(実技) 水深 18 mの潜水・・・その1
- 教程 4 (講義) 浮力と浮力調整法  
(実技) 水深 18 mの潜水・・・その2
- 教程 5 (講義) 水中オリエンテーション  
(実技) 水深 18 mの潜水・・・その3
- 教程 6 (講義) 海洋生物の知識  
(実技) 魚およびコーラルなどの記録、観察 (水深 18 m以内)
- 教程 7 (講義) 潜水計画  
    ・ナイトダイビング  
    ・大深度潜水  
(実技) 計画潜水 1  
    計画潜水 2  
    ナイトダイビング (水深 9 m以内)
- 教程 8 (認定) 学科テスト  
    自由潜水 1  
    自由潜水 2 (実技テスト)

### (3) 初級バッチ・テスト

#### 初級バッチ・テスト

##### (1) 受験資格

- A. 各種教育団体の修了証保持者で、15回以上のスクーバ・ダイビングの海洋経験のある者でスポーツ潜水の理論をマスターしている者。
- B. 本協会の初級プログラムまたは中級プログラムを修了し、1・スター・ダイバー、2・スター・ダイバー、または3・スター・ダイバーの認定証を有する者。

##### (2) 検定内容

###### ア) 学科

- A 海洋知識
- B 潜水物理
- C 潜水医学
- D 潜水技術
- E 潜水器具
- F 救急法
- G 救助法
- H 法規

###### イ) 面接試験

###### ウ) 実技

- A 安全潜水が出来るかどうか、無減圧潜水の範囲で検定する。
- B スター・ダイバーは、実技試験免除。

##### (3) 資格 合格者には、次の資格が与えられる。

- A. 本協会のスポーツ潜水技量認定証(Cカード) C級バッチ証明書が授与され、C級ダイバーとして本協会に登録される。
- B. 指導者養成プログラムの受講資格が与えられる。
- C. 海洋調査員資格認定試験の受験資格が与えられる。
- D. 本協会のC会員として、登録される。
- E. 本協会の専用海域で、Cレベルの水中活動が、許可される。

##### (4) 受験の手順・・・以下の書類を、協会事務局に提出する。

- A バッチ・テスト申込書
- B 医師の診断書(協会様式)
- C 検定料
- D 写真 3枚(免許用)
- E 海洋経験証明書

\* (1) - A の受験者は、各教育団体の講習修了証の写し、および、15回以上の海洋経験の証明を、本協会所定の用紙に、添付記入して、各指導団体の指導員の証明を得て提出すること。

\* スター・ダイバーは、必要ありません。

## (4) スター・ダイバー認定プログラム 認定基準と手続き

### (1) 1・スター・ダイバー

#### A) 認定の条件

各種教育団体の修了証保持者が、本協会のスター・ダイバーの認定を受けるためには次の手続きを経なければならない。

##### a) 受験手続き

- 1 スター・ダイバー認定申請書
- 2 写真 3枚
- 3 修了証の写し
- 4 医師の診断書
- 5 検定料

以上を添えて、協会事務局に申し込む。

##### b) 認定試験

本協会の初級プログラム(1・スター・ダイバー)の終了検定基準で行う。

\*このプログラムは、各種教育団体修了者が本協会のスター・ダイバーの認定を試験のみで受けようとするときに適用される。また、1・スター・ダイバーから上位のスター・ダイバーの認定を試験のみで受けようとする者にも適用される。

### (2) 2・スター・ダイバー

#### A) 認定の条件

- 1・スター・ダイバーに認定されてから15回以上の海洋経験を有する者

##### a) 受験手続き

- 1 スター・ダイバー認定申請書
- 2 写真 3枚
- 3 検定料

1・スター・ダイバーで、2・スター・ダイバーの認定を希望する者は、下記の認定試験を受けなければならない。

##### b) 認定試験

本協会の中級プログラム(2・スター・ダイバー)の終了検定基準で行う。

- ・実技(海洋)
- ・学科

### (3) 3・スター・ダイバー

#### A) 認定資格

16才以上の者で、2・スター・ダイバーの認定を受けてから20回以上の海洋経験を有する者。

さらに、次のダイビング経験および資格を必要とする。

1. 水深30m－40mの潜水 2回
2. ナイト・ダイビング 2回
3. 淡水潜水 2回
4. 高所潜水 1回
5. 日赤救急員資格

B) 認定試験

a. 学科 1スターおよび2スター・ダイバーの学科テストの範囲 さらに

1. ダイブテーブルと潜水計画
2. 事故発生時の処置
3. 物理学・医学と潜水
4. 用具
5. 高所潜水
6. 法規

b. 実技(海洋)

A. スキン・ダイビング

1. 200m水泳し、1.5Kgのウエイトを3mの地点より引き上げる。(三点・セットは陸上に置く)
2. 20秒水中で息こらえをし、10秒間で呼吸を整え、さらに20秒間息こらえをする。これをくりかえす。
3. 400mスノーケリングさらに、水深9mにサーフェス・ダイブ

B. スクーバ・ダイビング

1. 300mフルギヤーで泳ぐ(スノーケル使用)
2. 水深15mからダイバーを引き上げ、救助するシミュレーションを行う。
3. 水深24m - 30mに垂直降下する。  
その時点で
  - a. マスクをはずしてセットする
  - b. レギュレータをはずしセットする
  - c. 手信号を受け取る
4. マスク無しで、水深6mの地点を25m泳ぐ。
5. ナビゲーション  
水深9m - 12mの地点に、一辺30mの三角形を想定し、各頂点にフロートのついたラインを設置してある。  
スタート・ポイントから出発し、水面にあがることなく、三点を回ってくる。  
水面で正しくポイントを通過するかどうかをチェックする。
6. 減圧潜水および再潜水のシミュレーションを行う。

C. プール・テスト

- A. 上級プログラムのプレ・テスト
- B. 上級プログラムのプール実技標準よりテストを行う。

## (5) 中級バッチ・テスト

### 中級バッチ・テスト

#### (1) 受験資格

本協会の指導者養成プログラムを修了した者で、本協会認定の初級プログラムを2クラス以上指導した者。

#### (2) 検定内容

##### A) 学科

- 1 - a . 海洋知識
- b . 潜水物理学
- c . 潜水医学
- d . 潜水技術
- e . 潜水器具
- f . 救急法
- g . 救助法
- h . 搜索法と回収法
- i . 法規
- 2 - a . 学科教育法
- b . 実技教育法
- c . 教育心理学
- d . 教育計画
- e . 教育評価
- f . 教育統計

##### B) 面接試験

##### C) 口述試験

##### D) 教育実習 必要に応じて、受験者の中から、数名選び行う。

#### (3) 資格

- A . 合格者には、本協会のB級バッチ、証明書が授与され、B級指導員として登録される。
- B . A級指導員(上級バッチ・テスト)の受験資格が与えられる。
- C . 本協会の専用海域で、Bレベルの水中活動が許可される。
- D . 初級プログラムを指導することが出来る。

\* 各指導員が独自に指導を計画したときは、あらかじめその指導計画の認定を受けていなければならない。

#### (4) 更新手続き

B級指導員は2年に1度、認定指導員もしくは、検定指導員に申し出る。上記指導員が活躍中でないときは、事務局に直接更新の手続きをとる。ただし、次の更新条件を満たしていなければならない。

- 1 . 公認指導員としての義務・責任を果たし、協会の発展に寄与したかどうか。
- 2 . 年間6人以上の1・スター・ダイバーの認定を行ったかどうか。
- 3 . 協会主催の、研修会や指導・普及活動に参加したかどうか。

以上の条件、特に条件2を満たしていないときは、指導員としての資格を一時留保される。資格の回復は、協会の指定する研修会に参加すると同時に、初級プログラ

ムの一教程を指導して得られる。

さらに、本協会の公認指導員としての資格を著しく傷つけたときは、資格を取り消されることがある。

(5) 受験手順

以下の書類を、協会に提出する。

- A. バッチ・テスト申込書
- B. 医師の診断書
- C. 検定料
- D. 写真 3枚
- E. 指導教官の指導経歴証明書

**(6) 上級プログラム**  
**3・スター・ダイバー認定基準**

- (1) 受講の資格
  - A. 16才以上
  - B. 中級プログラム修了者
- (2) 指導者
  - A. A級指導員および上位の指導員
  - B. アシスタントとして、B級準指導員・B級指導員を付けることが望ましい。
- (3) 認定
  - A級指導員および上位の指導員が行う。
- (4) 標準テキスト
  - A. スポーツ潜水の科学と実際
  - B. 潜水土必携
  - C. PRACTICAL DIVING (by Mount & Ikehara)
  - D. S L A M (YMCA)
  - E. J S D A 教育用プリント
  - F. 100万人の救急法
  - G. ダイバーのための救急法 ( J S D A )
- (5) 教程標準
  - A. 学科
    - 1) 基礎潜理理論
      - 1. 物理学
        - a ボイルの法則と応用
        - b シャルルの法則と応用
        - c ドルトンの法則と応用
        - d ヘンリーの法則と応用
        - e パスカルの原理と応用
        - f アルキメデスの原理と応用
        - g 空気消費量の問題
        - h 視界の問題
        - i 音の問題
        - j 潜水学の数学
      - 2. 生理学とダイビング
        - a 減圧症とダイブ・テーブル
        - b 救急法 (初級カリキュラム)
    - 2) 上級潜理理論
      - 1. 減圧症
      - 2. 潜水の身体への生理学的危険
      - 3. 潜水の心理学的側面
  - B. 実技と理論
    - a) 救急法および救助法の理論と実技
      - 1. C P R (心肺蘇生法)
      - 2. ミッシング・ダイバーの救助手続き
      - 3. 救助のための浮力調整法
      - 4. 意識のあるダイバーの水面救助法
      - 5. 水中での無意識ダイバーの救助法

- 6. 水中での意識あるダイバーの救助法
- 7. 海洋生物による傷害の第一処置
- 8. 一般緊急処置手順
- b) 潜水環境と海洋生物
  - 1. 各地域の状況に応じたダイビング
  - 2. 次のダイビング状況に応じた用具および危険
    - \* ケイブ・ダイビング
    - \* アイス・ダイビング
    - \* レック・ダイビング
    - \* ボート・ダイビング
    - \* ビーチ・ダイビング
    - \* 潮流、海水、淡水、海の生物
- c) 水中ナビゲーション
- d) 限界視界におけるダイビング、ナイトダイビング
  - 1. バディー・ラインによる通信
  - 2. 基地より出発し、正しく帰ってくる方法
  - 3. 限界視界のダイビングか、ナイトダイビングを1回行う
- e) サーチとリカバリー（搜索と回収）
  - 1. 次のサーチ・パターンを実行する
    - \* サーキュラ・パターン
    - \* グライド・パターン
    - \* カレント・パターン
  - 2. 海洋において、緊急手順のシミュレーションを行う
  - 3. エア・リフト・バックを用いて、回収する手順を行う
- f) 減圧と再潜水
  - 1. 3 m地点で減圧停止シミュレーションを行う
  - 2. 3 m減圧停止の必要な潜水（2回以上）のシミュレーションを行う
  - 3. 各地域の再圧タンクの所在地・電話番号を知る
  - 4. 減圧ラインを用いての3 m減圧停止シミュレーションを行う
- g) ダイブ・マスター技術
  - 1. ダイブ・マスターとしての責任と統括
  - 2. ダイブ・マスターの資格
  - 3. ダイブ・マスターの用具
  - 4. ダイブ・マスターの処理できる状況について
  - 5. 信号の知識について
  - 6. ダイバーのストレスとパニック状態の判断
  - 7. ビーチダイビングとボートダイビングにおけるダイブ・マスターとしての技術
- C. 実技テスト
  - 1) プール実技・・・プレテスト 100点
    - A1 ジャイアント・ストライド・エントリーをし、水底まで潜り、SCUBAの脱着を行い、ボートダイビングのつもりで、はしごを用いて正しく出水する。
      - ・正確に出来る 10点

- ・一つの失点ごとに 2点減
- A 2 自由なエントリーをし50m泳ぎ、プールの縁に戻り、水面でSUCUBAを脱し出水する。この動作をボートダイビングのつもりで行う。(バディーシステム)
  - ・正確に出来る 10点
  - ・一つの失点ごとに 2点減
- B 1 20m平行潜水し、マスク・スノーケル・フィンを付ける。
- B 2 スノーケル 100m水泳
- B 3 200m バディーブリージング潜泳
  - ・1から3まで 10分以内 20点
  - ・1分オーバーするごとに 2点減
  - ・いずれかの項目の技術が不正確なら 10点減点
- C 50m救助水泳
  - ・1分以内 20点
  - ・5秒オーバーごとに 1点減点
- D 1 オクトパス・バディー・ブリージング 200m(スキンド이버とスクーバダイバー)
- D 2 装具の交換、さらに 100m泳ぐ
- D 3 再度、装具を交換しバディーブリーズを 100m
  - ・項目1から3まで完全なら 20点
  - ・1と2なら 15点
  - ・1項目(1のみ) 10点
- E スクーバ 800m潜泳
  - ・16分以内なら 20点
  - ・12秒ごとに 1点減点

\* 上級プログラムのプレテストは、80点以上とることが望ましいが、60点を合格ラインとする。この合格ラインは、各指導員のプログラムにあわせて考えることとし、プログラム終了時には85点以上の実力がついていなければならない。

## 2) プール実技・・・終了標準

- A 3点セット 800mを20分以内で泳ぐ。
- B 3点セット 25mを平行潜水し、スクーバを着ける。
- C オクトパス・バディー・ブリージング 400m
- D 細工されたレギュレータの使用
  1. リターンバルブのないレギュレータからの呼吸
  2. ダイヤフラムのないレギュレータからの呼吸
  3. ピストン・タイプでファースト・ステージのスプリングのないレギュレータからの呼吸

4．フリーフローをするレギュレータからの呼吸

5．タンクから直接呼吸する

以上の用具で50m潜泳する。

E Dを用いてバディー・ブリージング

F 無意識ダイバーをプールの底から引き上げ、マウス・トゥ・マウスをしながらプールの縁まで運び、プールサイドに引き上げCPRのシミュレーションを行う。(バディー・システム)

G ブラック・アウト・マスクを用いて、オクトパス・バディー・ブリージング。

H 救助法のシミュレーション。

### 3) 海洋実技

A スターダイバー認定プログラム(3)

3・スター・ダイバーの実技の項を実技標準とする。

## (7) 指導者養成プログラム リーダーシップ認定基準

### 指導者養成プログラム

- (1) 受講資格
  - A. 20才以上
  - B. C級ダイバーまたは3・スター・ダイバー
  - C. 日赤救急員資格または本協会の救助ダイバー資格
  - D. 30回以上の海洋経験
- (2) 指導者
  - A. A級指導員および上位の指導員
  - B. アシスタントとしてB級指導員を付けることが望ましい
- (3) 認定
  - A級指導員および上位の指導員が行う
- (4) 標準テキスト参考
  - a. スポーツ潜水の科学と実際
  - b. 潜水土必携
  - c. 100万人の救急法(技術書院)
  - d. ダイバーのための救急法(NSC)
  - e. 指導者のための救急法(技術書院)
  - f. CSDA 教育用プリント
  - g. 高所潜水表手引き(CSDA)
  - h. S L A M (YMCA)
  - i. PRACTICAL DIVING (by Mount & Ikehara)
- (5) 教程標準・・・スポーツ潜水指導者養成プログラムのカリキュラム

#### A. 学科

- 1. バッチ・テスト・システム概論
- 2. 初級カリキュラム概論
- 3. 潜水物理・・・上級プログラムの項目 A - 1 - 1の内容
- 4. 潜水医学
  - a. 人体生理学概論
  - b. 人体解剖学概論
  - c. 減圧症
  - d. 初級カリキュラムの潜水生理復習
- 5. 海洋一般
  - a. 海洋と気象
  - b. 波・潮流・潮汐のメカニズム
  - c. 海洋生物
- 6. 潜水技術概論
  - a. 潜水の歴史
  - b. 現代の潜水技術
  - c. 潜水技術の展望
- 7. 潜水器具とその構造
- 8. 救助法と救急法・・・上級プログラムの項目 B - a
- 9. 捜索法と回収法・・・上級プログラムの項目 B - e

- 10 . 法規
  - a . 漁業調整規則
  - b . 高圧ガス取締法
- 11 . 学科教育法
  - a . 初級プログラム演習
  - b . 効果的教育法
  - c . 教育心理学
- 12 . 教育計画
- 13 . 教育評価

\*\* は、3・スター・ダイバーは履修する必要はない。この単位に替えて面接試問を行う。

#### B . 実技

- 1 . 学科教育実習
- 2 . 実技教育実習
- 3 . 救助法実技 SLAM(YMCA) を用いて行う
- 4 . 救急法実技

#### C 1 . 実技テスト No 1

- 1) 400m 10分以内(3点セット使用)
  - ・15秒ごとに1点減点
- 2) スキン・ダイビング技術テスト - 1
  - 1 . 3回呼吸し、25m潜泳。マスク・スノーケルをリカバリー。出水し、フィンをつける。次に、ジャイアント・ストライド・エントリーをし、100m泳ぐ。さらに、サーフェス・ダイブ。
  - 2 . 25m潜泳し、水面で3回以内呼吸しサーフェス・ダイブし、15m潜泳、浮上し、3回以内呼吸し、10m潜泳する。浮上出水。
  - 3 . 800m泳ぐ。400mは手を用いてもよい。
  - 4 . スコアー
    - a . マスク・スノーケルの水を4分の3以上クリアー(ブロー) 水面に体が出るたびに 4点減点
    - b . 潜泳中からだが浮上するたびに 2点減点
    - c . 実行中の動作が停止するたびに 2点減点
    - d . 3回以上呼吸したら、1回につき 1点減点
    - e . 3に、20分以上かかったら、1分につき 1点減点
- 3) SCUBA 技術テスト - 1
  - 1 . ベイルアウト・・50m潜泳
  - 2 . スクーバのみ脱し、フリー・アセント、3回呼吸し、スクーバをリカバリー。
  - 3 . 5分間水面浮遊 BC・スノーケル・レギュレータの使用は無し
  - 4 . スコアー
    - a . 1の実行時、用具を失うと、1点につき 2点減点
    - b . 実行時浮上すると 4点減点

- c . 3回以上呼吸すると、1回につき 2点減点
- d . だらだらしていると 2点減点
- 4 ) SCUBA 技術テスト - 2
  - 1 . ダイバーとスイマーのバディー・ブリージング、2.5 m、スクーバの交換
  - 2 . バディーブリージングを2.5 m行い、さらに交換する。
  - 3 . 水面でスノーケル・バディー・ブリージング2.5 m、さらに、水底でタンクの交換（バディーブリージング）
  - 4 . スノーケル・バディー・ブリージング2.5 m
  - 5 . スコアー
    - a . 1と2、顔が水面に出たら 4点減点
    - b . 3と4、顔が水面に出たら 2点減点
- 5 ) 特別技術テスト
 

トレーニング・ディレクター（A級指導員、検定指導員）により、設定される。

**C 2 . 実技テスト No 2**

- 1 ) スキンダイビング技術テスト - 2
  - 1 . バディー・システム、スノーケル・バディー・ブリージング2.5 m
  - 2 . バディー・ブリージングをしながら、3回ヘッド・ファースト、2回フィート・ファーストで潜水する。水底で5 m以上泳ぐ。
  - 3 . マスク無しバディーブリージング100 m
  - 4 . スコアー
    - 顔が水面に出たら、そのたびに 2点減点
- 2 ) SCUBA 技術テスト - 3
  - 1 . はさみキック100 m
  - 2 . フラッター・キック100 m
  - 3 . ドルフィン・キック150 m
  - 4 . フロッグ・キック50 m
  - 5 . バック・キック50 m（スノーケル）
  - 6 . スノーケル50 m
  - 7 . スコアー
    - a . キックが不正確なら 4点減点
    - b . 11分30秒をオーバーすると、10秒ごとに 1点減点
- 3 ) SCUBA 技術テスト - 4
  - 1 . バディーブリージング400 m
  - 2 . スコアー
    - a . 9分から11分まで 20秒ごとに 2点減点
    - 11分から12分まで 15秒ごとに 1点減点
    - 12分から後は 10秒ごとに 1点減点
    - b . 水面に体が出たらそのつど 4点減点

4) ダイバー・レスキュー

1. 水底からダイバーを救助（横隔膜を押し、排気に注意する）
  - a. 水底で、浮力を中性に調整する。
  - b. BC を調整して、上昇浮力を調整する。
2. 水面で4回換気、5回に1回の比で換気しながら2.5m運ぶ。
3. プールの縁に運び SCUBA を脱す。  
次にプールの外に出す（SCUBA は犠牲者が脱してもよい）。
4. CPRのシミュレーションを行う。
5. スコア

技術的ミスがあれば、ミスごとに 2点減点

5) 特別技術テスト

トレーニング・ディレクターが設定する。

C 3 . 実技テスト No 3

1) 細工された用具

1. 1.5m平行潜水し、マウスピースの裂けたレギュレータより2呼吸する。
2. 1.0m平行潜水し、ノンリターン・バルブのないレギュレータより2呼吸する。
3. トレーニング・ディレクターが設定（1.5m）
4. トレーニング・ディレクターが設定（1.0m）
5. スコア
  - a. 1から4は 20点
  - b. 1, 2, 3で 16点
  - c. 1のみで 8点
  - d. バルブを閉めないと 2点減点
  - e. 1回呼吸オーバーごとに 1点減点
  - f. 水面に体が出るごとに 4点減点

2) SCUBA 技術テスト - 5

1. 1) のタンクを1.5m、1.0m、5mとおく。
2. 1のタンクを2呼吸ずつで回ってくる。
3. マスク・フィンで2.を行う。
4. マスクのみで2.を行う。
5. スコア
  - a. 不正確ならおのおの 7点減点
  - b. 水面に体が出て、続けてよい。

3) SCUBA 技術テスト - 6

1. オクトパス・バディー・ブリージング400m
2. スコア
  - 10分をオーバーすると15秒ごとに 1点減点

4) SCUBA 技術テスト - 7

1. ブラックアウト・マスクでバディブリージング2.5m、SCUBAの交換
2. バディブリージング2.5m、タンクの交換を行う
3. スコアー
  - a. 水面に体が出るごとに 4点減点
  - b. 1. 2. が不正確なら 10点減点

5) 特別テスト

トレーニング・ディレクターが設定する。

**D. 海洋実技テスト**

80点以上を合格とする

1) 指導技術評価

1. 生徒への諸注意
2. 生徒をリラックスさせる方法
3. クラスの管理
4. プレ・ダイブ・プラン
5. 潜水注意
6. 安全意識
7. 緊急行動
8. 態度

スコアー

- |       |          |
|-------|----------|
| a. 優  | 95 ~ 100 |
| b. 秀  | 90 ~ 95  |
| c. 良  | 85 ~ 90  |
| d. 平均 | 80 ~ 85  |
| e. 可  | 75 ~ 80  |
| f. 不可 | 70 ~ 75  |
| g. 危険 | ~ 70     |

**E. 教育法テスト**

- A) 15分~30分、プール・海洋にて実技指導
- B) 15分、プール・海洋にて2回講義を行う
- C) 15分準備、15分講義
- D) 15分講義(教案提出)
- E) 30分講義(教案提出)

**F. 筆記試験**

(6) 資格

本課程修了者は、B級指導員の資格が与えられ、指導員のもとで指導経験をつむことにより、中級バッチテストを受験できる。

- \* 指導者養成プログラムのコースは、検定指導員または検定指導員に任命されたトレーニング・ディレクターが行う。

## CSDA潜水指導者養成コース カリキュラム

- ( 教程 1 ) オリエンテーション
  - 1 . CSDA
  - 2 . 本コースの主旨
- ( 教程 2 ) 公認指導員の心構え
- ( 教程 3 ) スポーツ潜水初級カリキュラム概論
- ( 教程 4 ) 潜水物理学
- ( 教程 5 ) 潜水医学
- ( 教程 6 ) 海洋知識
- ( 教程 7 ) 潜水技術概論
- ( 教程 8 ) 潜水器具とその構造
- ( 教程 9 ) 救助法・救急法
- ( 教程 10 ) 搜索法
- ( 教程 11 ) 法規
  - 1 . 漁業調整規則
  - 2 . 高圧ガス取締法
- ( 教程 12 ) 学科教育法
- ( 教程 13 ) 実技教育法
- ( 教程 14 ) 学科教育実習
- ( 教程 15 ) 実技教育実習
- ( 教程 16 ) 救助法実技
- ( 教程 17 ) 救急法実技

## (8) 海洋調査員資格認定プログラム(C級)

### 海洋調査員資格認定プログラム

#### (1) 受講資格

- A. パッチ・ダイバー
- B. CSDA 会員

#### (2) 教程標準

- 1. 海洋調査員の義務・責任
- 2. 沿岸漁業一般
- 3. 生態学
- 4. 海洋生物
- 5. 植生調査法
- 6. 海洋調査システム
- 7. 海洋気象
- 8. 海洋地質
- 9. 海洋物理
- 10. 減圧と再潜水
- 11. ライン・ハンドリング \*
- 12. コミュニケーション
- 13. 水中写真
- 14. ドキュメンテーション \*
- 15. 救助法と救急法 \*
- 16. 捜索法と回収法 \*
- 17. 漁業調整規則

\* 印は実技を含む

#### (3) 検定内容

- A. 学科テスト 教程標準より
- B. 面接試験
- C. 実技試験 検定指導員もしくはコース・ディレクターが設定する。

#### (4) 資格

- A. C級海洋調査員資格が与えられる。
- B. 海洋委員会に、調査員として登録される。
- C. 海洋委員会の下で、海洋調査が出来る。

#### (5) 更新

1年に1度、海洋委員会を通じて更新の手続きを行う。ただし、海洋委員会の行う調査活動に2回以上参加していなければならない。  
協会の資格を取り消されたら、その時点で資格を取り消される。

## 海洋調査員資格認定プログラム (ウィークデー・コース)

### 1日目

- 6 : 0 0 - 7 : 0 0 オリエンテーション
- 7 : 0 0 - 8 : 0 0 海洋調査システムと海洋調査員の仕事
- 8 : 0 0 - 9 : 0 0 沿岸漁業と漁業調整規則
- 9 : 0 0 - 1 0 : 0 0 (バッチ・テスト初級)

### 2日目

- 6 : 0 0 - 7 : 0 0 生態学
- 7 : 0 0 - 8 : 0 0 植生調査法
- 8 : 0 0 - 9 : 0 0 海洋生物
- 9 : 0 0 - 1 0 : 0 0 (補講)

### 3日目

- 6 : 0 0 - 7 : 0 0 ラインハンドリングとコミュニケーション
- 7 : 0 0 - 8 : 0 0 海洋物理
- 8 : 0 0 - 9 : 0 0 海洋気象
- 9 : 0 0 - 1 0 : 0 0 海洋地質

### 4日目

- 6 : 0 0 - 7 : 0 0 減圧と再減圧
- 7 : 0 0 - 8 : 0 0 水中写真
- 8 : 0 0 - 9 : 0 0 搜索法
- 9 : 0 0 - 1 0 : 0 0 海洋測量

### 5日目

- 6 : 0 0 - 7 : 0 0 S L A M 概論
- 7 : 0 0 - 8 : 0 0 S L A M 概論
- 8 : 0 0 - 9 : 0 0 ドキュメンテーション
- 9 : 0 0 - 1 0 : 0 0 ドキュメンテーション

### 6日目

- 6 : 0 0 - 7 : 0 0 認定試験 (学科)
- 7 : 0 0 - 9 : 0 0 面接

### 7日目

- 1 0 : 0 0 - 1 1 : 3 0 a m 海洋実技テスト
- 1 3 : 0 0 - 1 5 : 0 0 S L A M 実技
- 1 6 : 0 0 - 1 7 : 0 0 認定手続き

1・スター・ダイバー 実技評価シート									
年齢 15+									
診断書									
300m水泳									
15m 平行潜水									
20m 救助水泳									
マスク・クリアリング									
スノーケル・クリアリング									
フィン・キック									
サーフェス・ダイブ									
エントリー									
スノーケル水泳(マスク無し)									
スノーケル・バディー・ブリージング									
スノーケル・フリー・アセント									
マスク・スノーケル・フィンのリカバリー									
スクーバ・フリー・アセント									
スクーバ・バディー・ブリージング									
スクーバ・脱着									
スクーバ・浮力のコントロール									
スクーバ・ウエイトの水面脱着									
スキンドайビング テスト 1 - A									
テスト 1 - B									
テスト 1 - C									
スクーバダイビング テスト 1 - A									
テスト 1 - B									
テスト 1 - C									
テスト 2									
テスト 3									
テスト 4									
海洋実技(スキンドайビング)									
海洋実技(スクーバダイビング) No 1									
海洋実技(スクーバダイビング) No 2									

認定ランク比較表

CSDA	AII	CMAS	SEI Diving
	ベシックダイバー		
	OW ダイバー		
1 スター・ダイバー	1 スター・ダイバー	1 スター・ダイバー	OW ダイバー
			OW プラス
2 スター・ダイバー	2 スター・ダイバー	2 スター・ダイバー	アドバンスド OWD
			アドバンスド・プラス
3 スター・ダイバー	3 スター・ダイバー	3 スター・ダイバー	マスター・ダイバー
準指導員(4級)	アシスタント インストラクター	4 スター・ダイバー	ダイブマスター
	OW インストラクター		
B 級指導員(3級)	1 スター インストラクター	1 スター インストラクター	アシスタント インストラクター
A 級指導員(2級)	2 スター インストラクター	2 スター インストラクター	インストラクター
A 級指導員(1級)	3 スター インストラクター	3 スター インストラクター	インストラクター トレーナー
検定指導員	4 スター インストラクター		コース・ディレクター